

2019年度第1回腫瘍センター講演会

がんゲノム医療の現状と 将来展望

がんの診断・治療方針決定においてゲノム情報を利用することの重要性は年々高まっています。解析技術の向上によって複数の遺伝子を網羅的に解析できるようになり、本邦においても複数の遺伝子パネル検査が既に承認されております。本講演では、承認されている遺伝子パネル検査の概要、ならびに、解析結果から選択される治療薬の具体例をご紹介いただき、また、リキッドバイオプシーなど今後期待される検査についても触れていただく予定です。

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社
病理診断・シーケンシング事業部 営業部 クリニカルセールス東日本 G

筒井 康博 先生

【日時】 令和1年10月7日（月）

18:00～19:30

【場所】 福岡大学医学部 A会議室（3F）

【座長】 病理学 鍋島 一樹 先生

共催：福岡大学病院腫瘍センター
福岡大学大学院医学研究科
福岡大学 九州がんプロ養成プラン
ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社